

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成30年度研究開発実施報告書

「人と情報のエコシステム」

研究開発領域

「『内省と対話によって変容し続ける自己』に関する
ヘルスケアからの提案」

研究代表者氏名

尾藤 誠司

(国立病院機構東京医療センター
臨床疫学研究室)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2-1. 研究開発目標	2
2-2. 実施内容・結果	3
2-3. 会議等の活動	7
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	8
4. 研究開発実施体制	9
5. 研究開発実施者	11
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	12
6-1. シンポジウム等	12
6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	14
6-3. 論文発表	14
6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	15
6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	16
6-6. 知財出願	17

1. 研究開発プロジェクト名

『内省と対話によって変容し続ける自己』に関するヘルスケアからの提案

2. 研究開発実施の具体的内容

2-1. 研究開発目標

- ・ 達成目標 1：ヘルスケア社会において、専門的情報や患者個人に関する情報がどのように処理され、提供され、関係者の意識の中で咀嚼されているのかについての実証的および概念的根拠が提示される。
- ・ 達成目標 2：さらに、以上のような個人内部での心の動きが、どのように自己の変容に影響しているかについての概念モデルが提示される。
- ・ 達成目標 3：現在、さらにはAI/IoTなど次世代情報技術が発達した状況でのヘルスケア現場で行われている意思決定のプロセスにおいて、専門家が持つべき役割と職能について整理し提示される。
- ・ 達成目標 4：現在、さらにはAI/IoTなど次世代情報技術が発達した状況でのヘルスケア現場で行われている意思決定のプロセスにおいて、病を抱える主体である患者が専門情報や専門家からの助言を自らの決断に適用させるうえで必要な手順や考え方について整理し提示される。
- ・ 達成目標 5：他の複数の領域におけるプロフェッショナルとクライアントとの関係性において、「達成目標 3, 4」が提示される。
- ・ 達成目標 6：AI/IoTなど次世代情報技術が発達した状況において、個人が情報技術を自らの決断に生かしたり、他者とコミュニケーションをとったりする上でどのように利用することが望ましいかについての考え方や行動の指針が提示される。
- ・ 達成目標 7：AI/IoTなど次世代情報技術が発達した状況において、「内省と対話によって変容し続ける自己」が育成されるうえでの要件が明らかにされ提示される。
- ・ 達成目標 8：情報技術の発達によって個人の中で増大すると予測される不安を「手なずける」ための方法を開発する。
- ・ 達成目標 9：さらに、特に健康に関連する情報によって生み出され増大する不安を「手なずける」上での専門家からの支援方法を開発する。

2-2. 実施内容・結果

(1) スケジュール

実施項目	平成30年度 (H30. 4～H31. 3)	平成31年度 (H31. 4～H31. 10)
実施項目1. 人工知能が実装された医療現場を想定した上での医療情報の利用、および医療に関する決断についてのグループ調査	←————→	
実施項目2. 「内省と対話によって変容し続ける自己」の心的モデル化	←————→	
実施項目3. 「情報時代のセルフケア」および「セルフケア支援」メソッドの開発	←————→	
実施項目4. 情報時代における意思決定支援者としての医療専門職、およびその他の専門職に求められる新たな職能と規範に関する研究	←————→	

(2) 各実施内容

今年度の到達点1：人工知能が普及した状況において、健康問題を持った人が新たに抱えることが想定される情報入手方法の混乱、認識の混乱、価値づけの混乱、そしてそれらに伴い発生する不安の内容について概念整理が完了している。

- ・ 実施項目：人工知能が実装された医療現場を想定した上での医療情報の利用、および医療に関する決断についてのグループ調査
- ・ 実施内容
 - ・ 研究の種類：調査研究
 - ・ 調査の方法：フォーカス・グループ調査
- ・ 調査対象者とサンプリング：3人-4人を1グループとするグループ単位の調査を医師以外の医療者に対し2回合計8名、医師に対し3回合計9名行った。そのうえで、インタビュー記録をすべてテキスト化し、テキストの内容分析を行った。

今年度の到達点2：「内省と対話によって変容し続ける自己」の心的モデルが説明されている

- ・ 実施項目：「内省と対話によって変容し続ける自己」の心的モデル化
- ・ 実施内容
 - ・ 研究の種類：分析研究及び開発研究
 - ・ 研究の手順：「心のプログラミング」グループを中心に、二週間に一度の頻度で「内省と対話によって変容し続ける自己」の心的モデルに関するタスクチーム

での議論を行った。そこでは毎回心的モデルの図式化を行った。当該記録は
<http://www.takebay.net/EM/pdf/> にアーカイブ化されている。

今年度の到達点3：到達点1、2を踏まえたうえで、自己の「不安を手なずける」ためのセルフケアメソッドの骨格が開発されている。また、「不安を手なずける」ためのセルフケアを支援する臨床メソッドの骨格が開発されている。

- ・ 実施項目：「情報時代のセルフケア」および「セルフケア支援」メソッドの開発
- ・ 実施内容
 - ・ 研究の種類：開発研究
 - ・ 開発を目指すターゲット：<A>「情報時代のセルフケア」のコンセプトと実際のセルフケアの方法、専門家による、セルフケアを支援するための方法
 - ・ 研究の手順：「セルフケア支援開発メソッドタスクチーム」として、身体系医師・精神系医師・看護師・人類学者・社会学者を含む10名のタスクチームを構成した上、メソッド開発のためのワーキングを繰り返した。前半は「内省と対話によって変容し続ける自己」の心的モデルを参照しつつ概念的な整理を行った。後半は、具体的なモデル事例を設定し、モデル事例に基づきセルフケアとセルフケア支援の具体的なメソッドに関する議論を行った。

今年度の到達点4：医療サービスの基盤に人工知能が普及した状況を想定した際の医療者像について、特に意思決定支援者としての視点からその役割の更新が試みられ概念化が完了している。

- ・ 実施項目：情報時代における意思決定支援者としての医療専門職、およびその他の専門職に求められる新たな職能と規範に関する研究
- ・ 実施内容
 - ・ 調査・分析および開発研究
 - ・ 開発を目指すターゲット：情報時代における意思決定支援者としての医療専門職、およびその他の専門職に求められる新たな職能と規範
 - ・ 実施手順
 - ◇ 調査事業1：H29年度に引き続き、医療サービスの基盤に人工知能が普及した状況を想定した際の医療者に関するNeo Socratic Dialogueを実施し、分析を行った。
 - ◇ 調査事業2：医療サービスの基盤に人工知能が普及した状況を想定した際の医療者像に関するフォーカス・グループ・インタビューを医師・医師以外の医療者に対して実施した。
 - ◇ 調査事業1-2をもとに、医療者用WEBフォーラム「エムスリー.com」において「AI 社会と医療」というフォーラムを設置し、当該フォーラムで毎月論考を発表している。

(3) 成果

実施項目1：人工知能が実装された医療現場を想定した上での医療情報の利用、および医療に関する決断についてのグループ調査

成果：

- ・ 調査を予定通り実施し分析をほぼ完了した。
- ・ 「健康を保持する」という人の欲求と、実際にはかなえられない「健康の保持」についての心的モデル、およびそこから生まれる不安感情を安定させようとするプロセスについてモデル化が進んだ。
- ・ 健康状態の破たんに対する不安解消のプロセスモデルは、近未来における情報を自己のどのように取り入れ、それをどのように人の幸せにつなげていくのか、ということに関する心的モデルを構築していくことができた。

実施項目 2：「内省と対話によって変容し続ける自己」の心的モデル化

成果：

- ・ 「Emotion Machine 塾」を通じて、自然知能が処理する情報の受け渡しと、その深層ではたらく認識、価値観、価値判断などの関係性についての解明が進んだ。
- ・ 生成された概念図について <http://www.takebay.net/EM/pdf/> にアーカイブ化した。

実施項目 3：「情報時代のセルフケア」および「セルフケア支援」メソッドの開発

成果：

- ・ 「セルフケア/セルフケア支援」タスクチームのワーキング成果から、「情報を受け取ることによって湧き上がる不安」によりフォーカスを置いたセルフケアモデルの開発が進んだ。
- ・ ヘルスケア領域において、自分に対して行われる治療等に関する決断のプロセスを、既存の枠組みである「Shared Decision Making」モデルから応用させた形で「ともに考える医療」として情報発信を行った。さらにその総括的なイベントとして日本医療評価機構とジョイントし、Minds フォーラム「「おまかせ」しない医療に向けて：患者と医療者は何をシェアしていくべきか？」を開催した。その全容については以下に公開されている。
https://minds.jcqh.or.jp/activity/annual_report/T0012452
- ・ 「情報時代のセルフケア」および「セルフケア支援」の情報発信プラットフォームとして、WEBサイト
「うまくいかないからだとこころ」 <http://umakara.net/>
を開設し、「セルフケア/セルフケア支援」の概念化及び具体的なメソッドについての情報発信を開始した。
- ・ 患者と医療者との言葉のやり取りに関する情報発信として、雑誌「家庭画報」で「お医者さまの取扱説明書」の連載を2018年1月号から開始した。2019年8月号まで連載予定である。詳細は以下のURLで公開されている。
<https://www.kateigaho.com/migaku/36909/>

実施項目 4：情報時代における意思決定支援者としての医療専門職、およびその他の専門職に求められる新たな職能と規範に関する研究

成果：

- ・ フォーカス・グループ・インタビューおよびNeo Socratic Dialogueで得られた研究結果を解析し、「人と情報が共生する社会」における情報専門家の在り方、および専門

的知識基盤の中でサービスを提供する象徴的な職種である医師などの医療専門職の職能の変遷、あるいは職責の変遷について概念化を行った。

- ・ 本成果の一部については書籍化を行った
浅井篤、大北全俊 他. 「倫理的に考える医療の論点」 日本看護協会出版会
(2018/1/24) ISBN-10: 4818021016
- ・ さらに、本成果の一部を第10回日本プライマリ・ケア学会学術集会メインシンポジウム「近未来のプライマリ・ケア医に求められる能力と学びとは？」において発表を行った。
<http://www.c-linkage.co.jp/jpca2019/program.html>
- ・ WEB上の情報発信としては、研究責任者がこれからの時代の専門職の在り方について定期的に「日経メディカルオンライン」上で「尾藤誠司の ヒポクラテスによるしく」という情報発信カテゴリを取得しテキストによる情報発信を続けた。
<https://medical.nikkeibp.co.jp/inc/all/blog/bito/>

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

- ・ 進捗状況
 - 事業全体は当初定めた目標を達成するべく順調に進捗していると認識している。
 - 一方、当初目標としていた「セルフケア支援外来」の設置については、保険診療の制約等からなかなか実現に向けためどが立っていないところが実情である。
- ・ あきらかになったこと
 - 人と情報がどのように付き合っていくのかということについて、以下の部分がキーポイントであることが今までの調査等の中で明らかになった。
 - ◇ 本来人は日々変容する存在である。つい一時間前に考えていたことと今考えていたことが全く異なることに不思議はない。ところが、情報は時間やゆらぎを固定化するという特性を持っている。そこに人間は不安を見出し、その不安を安定させようとする意図を持つようになるが、基本的にその試みは失敗する。本プロジェクトでは、その心の仕組みにより集中しながら「不安とともに人はいかに自分の生活をやりくりしていくのか」というアジェンダを中心に展開する予定である。
 - ◇ その中で「セルフケア」といういささか古びた響きを持つコンセプトが「情報と人がなじみよい社会」のキーコンセプトのひとつになっていることが明らかになってきた。ただ、この「セルフケア」はこれまでの「セルフケア」が持っていた「自己制御」の意味ではなく、むしろ脱制御に向かっている。そして、個人の「からだところ」は社会や国家と同じように「制御や統治」によって手なずけられていたが、近未来の情報は「制御や統治」以外の方法（おそらくそれが内省と対話、そして共感に）によって個人や社会を成立させていくことを促進するということが明らかになってきた。
- ・ 次年度に向けた課題
 - 本プロジェクトを通じて今後のキーワードとした「うまくいかないからだところ」は、以上の概念を包括するキーワードだと認識する。
 - 次年度は「うまくいかないからだところ」を中核概念としながら、荒ぶる体と心を持つ個体である人間が、脱制御の中でどのように生活をやりくりしていく

か、という方法論を「新しいセルフケア」としてまとめていくことをゴールとする。

- さらに、それは社会や国家の新秩序に応用されることを研究者としては想定している。令和元年度内に「うまくいかないからだとこころ」とともに「うまくいかない人間と社会」のあり方についても提示することを目標としたい。

2-3. 会議等の活動

セルフケア支援 ワーキング（尾藤班）

年月日	名称	場所	概要
2018/5/20	内省と対話プロジェクト（尾藤班）ワーキング	東京都港区	セルフケア支援メソッド開発ワーキング キックオフミーティング
2018/7/21	セルフケア支援WG	東京都渋谷区	セルフケア支援メソッド開発に関するミーティング（第2回）
2018/9/8	セルフケア支援WG	東京都中央区	セルフケア支援メソッド開発に関するミーティング（第3回）
2018/10/27	セルフケア支援WG	東京都中央区	セルフケア支援メソッド開発に関するミーティング（第4回）
2018/12/15	セルフケア支援WG	東京都中央区	セルフケア支援メソッド開発に関するミーティング（第5回） 事例検討-1
2018/12/22	セルフケア支援WG	東京都中央区	セルフケア支援メソッド開発に関するミーティング（第6回） 事例検討-2
2019/2/3	セルフケア支援WG	東京都中央区	セルフケア支援メソッド開発に関するミーティング（第7回）
2019/2/17	セルフケア支援WG	東京都中央区	セルフケア支援メソッド開発に関するミーティング（第8回）

「内省と対話によって変容し続ける自己」の心的モデル化のための「Emotion Machine 塾」（竹林班）

年月日	名称	場所	概要
2018/4/12	第17回 Emotion Machine塾	東京都文京区	2017年度の総復習
2018/4/26	第18回 Emotion Machine塾	東京都文京区	ミンスキー博士の脳の探求 7章-1
2018/5/17	第19回 Emotion Machine塾	東京都文京区	ミンスキー博士の脳の探求 7章-2

2018/5/31	第20回 Emotion Machine塾	東京都文京区	ミンスキー博士の脳の探求 7章-3
2018/6/14	第21回 Emotion Machine塾	東京都文京区	ミンスキー博士の脳の探求 8章-1
2018/6/28	第22回 Emotion Machine塾	東京都文京区	ミンスキー博士の脳の探求 8章-2
2018/7/12	第23回 Emotion Machine塾	東京都文京区	ミンスキー博士の脳の探求 8章-3
2018/7/26	第24回 Emotion Machine塾	東京都文京区	計算機科学の変遷について 他
2018/8/9	第25回 Emotion Machine塾	東京都文京区	為末大さんの内観力 他
2018/9/27	第26回 Emotion Machine塾	東京都文京区	EMと自身の仕事 他
2018/10/11	第27回 Emotion Machine塾	東京都文京区	ポジショントーク 他
2018/10/25	第28回 Emotion Machine塾	東京都文京区	「誤作動する脳」-1 他
2018/11/8	第29回 Emotion Machine塾	東京都文京区	唯識の歴史と基本思想 他
2018/11/22	第30回 Emotion Machine塾	東京都文京区	ミンスキー教育 他
2018/12/6	第31回 Emotion Machine塾	東京都文京区	「誤作動する脳」-2
2018/12/20	第32回 Emotion Machine塾	東京都文京区	ミンスキー理論 他
2019/1/17	第33回 Emotion Machine塾	東京都文京区	「誤作動する脳」より「目は心の窓」 他
2019/2/14	第34回 Emotion Machine塾	東京都文京区	ミンスキー博士の脳の探求 9章-1
2019/2/28	第35回 Emotion Machine塾	東京都文京区	ミンスキー博士の脳の探求 9章-2
2019/3/28	第36回 Emotion Machine塾	東京都文京区	総集編

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- 研究開発成果の試行的利用：実際に「セルフケア」と「セルフケア支援」の臨床応用には至っていない。一方、尾藤および研究関与者が日々行っている臨床において、慢性疾患を多数有していたり、病気とともに障害を持ちながら暮らしている患者の方々が「制御の論理」の中で不都合な状況に陥っていることがしばしばある。保険診療の

枠組み、かつ診療ガイドライン等を逸脱しない範囲において、臨床実践ノウハウを次第に言語化し日常臨床に取り込んでいる。

- ・ 社会実験の取り組み：WEBサイト「うまくいかないからだとこころ」を開設した。現時点では情報発信のみにとどまっているが、令和元年度においては「うまくいかないからだとこころ」および「うまくいかない人間と社会」に関する事例提示や対話フォーラム、実験的なメッセージを発信して行く予定である。

4. 研究開発実施体制

(1) 総括研究グループ

①尾藤誠司（独立行政法人国立病院機構東京医療センター臨床疫学研究室長）

②実施項目

実施項目1：人工知能が実装された医療現場を想定した上での医療情報の利用、および医療に関する決断についてのグループ調査

実施項目2：「内省と対話によって変容し続ける自己」の心的モデル化

実施項目3：「情報時代のセルフケア」および「セルフケア支援」メソッドの開発

実施項目4：「セルフケア支援外来」の開設と有効性評価

〈プロジェクトにおける本グループの位置づけ〉

- ・ 本グループはプロジェクト全体の統括を行う。
- ・ また、3つのサブグループ活動に関する進捗管理と相互情報交通を支援する。
- ・ 実施項目1において、提供される医療情報が、AIに基づく解析結果である場合に、従来の医療情報への対応と何が同じで、何が異なるかについて明らかにする。
- ・ 実施項目2においては、各分担グループで描いたモデルの統合を総括研究グループで行う。
- ・ 実施項目4においては、東京医療センターを事業実践の場として想定する。
- ・ 実施項目5においては、2-3. 哲学・倫理学・心理学グループの活動実績を踏まえ、「意思決定当事者」と「意思決定支援者」および「情報」との関係性およびコミュニケーションのあり方について提言を行う。

(2) 臨床グループ

①名郷直樹（独立行政法人国立病院機構東京医療センター臨床疫学研究室研究員）

②実施項目

実施項目2：「内省と対話によって変容し続ける自己」の心的モデル化

実施項目3：「情報時代のセルフケア」および「セルフケア支援」メソッドの開発

〈プロジェクトにおける本グループの位置づけ〉

- ・ 本グループは、総括研究グループと最も距離を近くしながら、上記の2つの実施項目を中心に行う事業体として位置づける。
- ・ 実施項目2においては、H29年度に実施した実証研究のデータ分析を中心的に進

める。また、「意思決定の根拠」「意思決定プロセスにおけるドミナント価値」「意思決定プロセスにおける感情の変動」についてのモデル化を臨床の視点から行う。

- ・ 実施項目3においては、総括研究者とともにメソッド開発の手順を進めるほか、「情報を専門家として、および患者として扱う方法」「情報によってもたらされる感情を患者として扱う方法」について焦点化したメソッドを開発する。
- ・ 実施項目5においては、2-3. 哲学・倫理学・心理学グループの活動実績を踏まえ、「意思決定当事者」である患者が、医療に関する情報や、情報に外挿される価値（主に、医学あるいは医療が脆弱な状況にある患者に対し支配的関係を持ちうるドミナント価値）に対し、どのような心構えや、どのような行動手順を持つべきかについての提言を行う。

（3）哲学・倫理学・心理学グループ

①浅井篤（東北大学大学院医学系研究科医療倫理学分野教授）

②実施項目

実施項目2：「内省と対話によって変容し続ける自己」の心的モデル化

実施項目5：情報時代における意思決定支援者としての医療専門職、およびその他の専門職に求められる新たな職能と規範に関する研究

〈プロジェクトにおける本グループの位置づけ〉

- ・ 本グループでは、「内省と対話によって変容し続ける自己」「AI時代の患者と決断」「AI時代の意思決定支援者としての専門家」について、哲学・倫理学・心理学の視点からモデル化を行う。
- ・ 実施項目2においては、総括グループおよび他のグループと異なる方法論からモデルにアプローチし総括グループに結果を提出する。
- ・ 実施項目5においては、本プロジェクトの中で中心的な役割を担う。

（4）「こころのプログラミング」グループ

①竹林洋一（静岡大学大学院総合科学技術研究科教授）

②実施項目

実施項目2：「内省と対話によって変容し続ける自己」の心的モデル化

実施項目3：「情報時代のセルフケア」および「セルフケア支援」メソッドの開発

実施項目4：「セルフケア支援外来」の開設と有効性評価

〈プロジェクトにおける本グループの位置づけ〉

- ・ 本グループは、人が情報を取り入れたり、他者と対話をしたりすることによって、自己にどのような変容が生まれ、その変容が繰り返されていくのかについて、プログラミングの視点から解明することを役割とする。さらに、そこから生まれた成果を実際の人の思考の在り方や行動の仕方に外挿することを役割とする。
- ・ 実施項目2においては、「こころのプログラミング」という視点からモデルを立案し、総括グループに提出する。
- ・ 実施項目3においては、総括グループを中心に開発されるメソッドにおいて、そのパフォーマンス評価を実現するような手法を見出す。

- ・ 実施項目4においては、実施項目3の手法を活用し、患者あるいは実践者同意のもとで動画データなどを収集し、患者の自己変容プロセスを表出化させる。

5. 研究開発実施者

グループごとの概要

マネジメント体制

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
尾藤誠司	ビトウセイジ	独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター	臨床研究センター政策 医療企画研究部 臨床疫学研究室	室長
佐久間結子	サクマユコ	独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター	臨床研究センター政策 医療企画研究部 臨床疫学研究室	研究事務
林八千恵	ハヤシチエ	独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター	臨床研究センター政策 医療企画研究部 臨床疫学研究室	室員

研究グループ名: 総括研究グループ

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
尾藤誠司	ビトウセイジ	独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター	臨床研究センター政策 医療企画研究部 臨床疫学研究室	室長
松村真司	マツムラシンジ	独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター	臨床研究センター政策 医療企画研究部 臨床疫学研究室	研究員
佐久間結子	サクマユコ	独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター	臨床研究センター政策 医療企画研究部 臨床疫学研究室	研究事務
林八千恵	ハヤシチエ	独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター	臨床研究センター政策 医療企画研究部 臨床疫学研究室	室員

研究グループ名:臨床グループ

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
名郷直樹	ナゴウナキ	独立行政法人 国立病院機構 東京医療センター	臨床研究センター政策 医療企画研究部 臨床疫学研究室	室員
藤沼康樹	フジノマヤスキ	千葉大学大学院 看護学研究科	看護学部	特任 講師

研究グループ名:哲学・倫理学・心理学グループ

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
浅井篤	アサイアツシ	東北大学大学院	医学系研究科医療倫理 学分野	教授
大北全俊	オオキタマツシ	東北大学大学院	医学系研究科医療倫理 学分野	助教

研究グループ名:「こころのプログラミング」グループ

氏名	フリガナ	所属機関等	所属部署等	役職 (身分)
竹林洋一	タケハヤシヨウイチ	静岡大学	創造科学技術大学院	特任 教授
石川翔吾	イシカワショウゴ	静岡大学	大学院総合科学技術研 究科	助教

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
2018年 11月23 日	コモンセンス知識と情動 研究会第11回研究会（人 工知能学会合同研究会 2018）	慶應義塾大 学 谷上キャン パス	50	認知症やうつ当事者，AI研究 者，医師，実務家を含め多様 な視点から，「当事者のから だところ」に関して活発な 議論が行われ，インタラクシ

				<p>ョン（対話）モデルの新たな知見が得られた。</p>
2018年9月26日	ヘルスケア人工知能（AI）導入後の医療専門職、医療、社会を考える研究発表会	〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1 医学部 5 号館 10 階 東北大学大学院医学系研究科医療倫理学分野セミナー室	20	<p>1 浅井 篤 大北全俊、圓増 文 大西基喜 尾藤誠司 (Atsushi Asai, Taketoshi Okita, Aya Enzo, Motoki Ohnishi, Seiji Bito)</p> <p>Hope for the best and prepare for the worst. ヘルスケア人工知能 (healthcare artificial intelligence) 導入がもたらし得る憂慮すべき状況に関する考察 (A study on ethical concerns related to the introduction of healthcare artificial intelligence in Japan)</p> <p><u>14:00-15:00 (発表40分、質疑応答20分)</u></p> <p>2 大北全俊、堀江剛、浅井篤、尾藤誠司 (Taketoshi Okita, Takeshi Horii, Atsushi Asai, Seiji Bito)</p> <p>人工知能 (AI) の医療導入を見据えた哲学対話の手法を用いた調査研究 (ネオ・ソクラティック・ダイアログおよびトランスファー・ダイアログ) の結果報告: 「AI導入後における、医療者のあり方とはどういうものか」</p> <p><u>15:10-16:10 (発表40分、質疑応答20分)</u></p> <p>3 大西基喜 (青森県立保健大学大学院健康科学研究科保健・医療・福祉政策システム領域公衆衛生研究室)</p>

				<p>健康格差、ヘルスリテラシー、情報格差と人工知能(AI)</p> <p>4 総合討論(16:10-17:00) および閉会</p>
--	--	--	--	---

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍・冊子等出版物、DVD等

なし

(2) ウェブメディアの開設・運営

- ・ WEBサイト「うまくいかないからだところ」 (<http://umakara.net/> 2019年3月)
- ・ YouTube 「B氏とM氏の今夜もプライマリ・ケア」 (<https://primarycareopendialogue.wordpress.com/> 2017年6月)
- ・ 尾藤誠司 note (<https://note.mu/bitoseiji>)
- ・ 家庭画報.cpm [お医者様のトリセツ] (<https://www.kateigaho.com/?s=%E5%B0%BE%E8%97%A4%E8%AA%A0%E5%8F%B8&btng=%E6%A4%9C%E7%B4%A2> 2018年3月)

(3) 学会(6-4.参照)以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・ Mindsフォーラム2019、「『おまかせ』しない医療に向けて：患者と医療者は何をシェアしていくべきか?」、2019.1.12、東京都千代田区、尾藤誠司
https://minds.jcqh.or.jp/activity/annual_report/T0012452
- ・ 第1回みんなの認知症情報学シンポジウム、みんなの認知症情報学が開くこれからの自立共生社会、2018.12.18、東京都文京区、竹林班

6-3. 論文発表

(1) 査読付き(1 件)

●国内誌(0 件)

なし

●国際誌(1 件)

- ・ Atsushi Asai, Taketoshi Okita, Aya Enzo, Motoki Ohnishi, Seiji Bito. Hope for the best and prepare for the worst: Ethical concerns related to the introduction of healthcare artificial intelligence. Eubios Journal Asian and International Bioethics 2019;29:64-71.

(2) 査読なし (1 件)

- ・ 石川翔吾, 竹林洋一: スーツケースワード, ゴール, 感情, 多重思考モデル—認知症情報学によるInterior Grounding—, 人工知能学会誌, Vol.33, No.3, pp.307-315 (2018).

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 3 件、国際会議 0 件)

- ・ 尾藤誠司 (東京医療センター)、「プライマリ・ケア教育とこれからの医療のかたち」ポータルフォーライブ指導および講演「“Illness”の最前線と最先端」、第7回静岡プライマリ・ケアフォーラム、静岡県静岡市 2019.1.19
- ・ 尾藤誠司 (東京医療センター)、「内科医に教わる患者と医師の良好コミュニケーション術」、町田市医療安全支援センター講演会、東京都町田市 2018.11.14
- ・ 尾藤誠司 (東京医療センター)、「医療コミュニケーション/Shared Decision Making」、特定非営利活動法人日本医療教育プログラム推進機構 総合診療スキルアップセミナー、東京都港区 2018.10.21

(2) 口頭発表 (国内会議 6 件、国際会議 1 件)

- ・ Prof. Atsushi Asai, (Tohoku University, Graduate School of Medicine, Sendai, Japan)、Hope for the best and prepare for the worst: A study on ethical concerns related to the introduction of healthcare artificial intelligence in Japan、Twelfth Kumamoto University Bioethics Roundtable: Bioethics in the 21st Century、1-2 December 2018* Kusunoki Kaikan, Kumamoto University, Japan
- ・ 石川翔吾 (静岡大)、当事者の個性を尊重した生活環境インタラクシオンデザイン、コモンセンス知識と情動研究会第11回研究会 (人工知能学会合同研究会2018)、慶応義塾大学 矢上キャンパス、2018.11.23
- ・ 小林美亜 (千葉大学医学部附属病院)、当事者視点重視のケアインタラクシオン評価モデル、コモンセンス知識と情動研究会第11回研究会 (人工知能学会合同研究会2018)、慶応義塾大学 矢上キャンパス、2018.11.23
- ・ 岡田太造 (兵庫県立大学)、Minsky理論に基づく困りごと場面のインタラクシオンモデル、コモンセンス知識と情動研究会第11回研究会 (人工知能学会合同研究会2018)、慶応義塾大学 矢上キャンパス、2018.11.23
- ・ 桐山伸也 (静岡大)、当事者の自立共生支援に向けたマルチモーダル生活環境センシング、コモンセンス知識と情動研究会第11回研究会 (人工知能学会合同研究会2018)、慶応義塾大学 矢上キャンパス、2018.11.23
- ・ 尾藤誠司 (東京医療センター)、決断へのプロセスにおける人間のこころの動き、そして、その支援、人工知能学会 近未来チャレンジ「認知症の人の情動理解基盤技術とコミュニケーション支援への応用」、城山観光ホテル (鹿児島)、2018.06.05
- ・ 橋田浩一 (東京大学) 石山洸 (静岡大学) 尾藤誠司 (東京医療センター)、みんなの認知症情報学への新たな展開、2018年度人工知能学会全国大会 (第32回) パ

ネル討論、鹿児島県鹿児島市、2018.6.4

(3) ポスター発表 (国内会議 1 件、国際会議 0 件)

- ・ 小俣 敦士, 松井 佑樹, 石川 翔吾 (静岡大学), 桐山 伸也 (静岡大学/みんなの認知症情報学会), 宗形 初枝, 中野目 あゆみ, 香山 壮太, 島野 光正, 原 寿夫 (郡山市医療介護病院), 坂根 裕 (エクサウィザーズ), 本田 美和子 (東京医療センター), 竹林 洋一 (静岡大学/みんなの認知症情報学会), "認知症ケアにおける自己表現モデルに基づく協調学習環境デザイン", みんなの認知症情報学会第1回年次大会, 静岡大学浜松キャンパス, 2018.9.1

6-5. 新聞/TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 (20 件)

【新聞】

- ・ 週刊医学界新聞第3298号、書籍「どもる体」著者伊藤亜紗氏との対談、医学書院、2018.11.29、

【Webサイト記事】

- ・ 日経メディカルオンラインブログ 尾藤誠司の「ヒポクラテスによろしく」「治療を受けなければよかった」と言われたとき：2019.3.25
- ・ M3.com AIラボ 尾藤誠司の「AI社会と医療」、「情報病」としてのインフルエンザ：2019.3.20
- ・ M3.com AIラボ 尾藤誠司の「AI社会と医療」、「病院」は未来の“ディストピア”の予見空間かもしれない：2019.2.25
- ・ 日経メディカルオンラインブログ 尾藤誠司の「ヒポクラテスによろしく」何かに依存していることは悪いことか？：2019.2.22
- ・ 日経メディカルオンラインブログ 尾藤誠司の「ヒポクラテスによろしく」疫学と易学はだいたい同じ：2019.1.31
- ・ 日経メディカルオンラインブログ 尾藤誠司の「ヒポクラテスによろしく」セカンド・オピニオンについて誤解していました：2018.10.4
- ・ 日経メディカルオンラインブログ 尾藤誠司の「ヒポクラテスによろしく」あまりフレンドリーな医療者にならないようにしています：2018.5.14

【雑誌記事】

- ・ 「お医者様のトリセツ (尾藤誠司)」、家族と医師で支える最終段階の過ごし方、家庭画報3月号：294-295、世界文化社：2019.3
- ・ 「お医者様のトリセツ (尾藤誠司)」、西洋医学以外の方法を試してみたいとき、家庭画報2月号 228-229 世界文化社 2019.2
- ・ 「お医者様のトリセツ (尾藤誠司)」、認知症への対応を医師に期待しすぎない、家庭画報1月号 306-307 世界文化社 2019.1
- ・ 「お医者様のトリセツ (尾藤誠司)」、入院生活のストレスをできる限り減らす、家庭画報12月号 314-315 世界文化社 2018.12

- ・ 「お医者様のトリセツ（尾藤誠司）」、飲む必要のない薬は飲みたくない！、家庭画報 310-311 世界文化社 2018.11
- ・ 「お医者様のトリセツ（尾藤誠司）」、「お任せします」と医師に言うのは要注意、家庭画報10月号 274-275 世界文化社 2018.10
- ・ 「お医者様のトリセツ（尾藤誠司）」、医師の説明がちんぷんかんぷんだ、家庭画報9月号 258-259 世界文化社 2018.9
- ・ 「お医者様のトリセツ（尾藤誠司）」、医師が「大丈夫」というとき、いわないとき、家庭画報8月号 264-265 世界文化社 2018.8
- ・ 「お医者様のトリセツ（尾藤誠司）」、“病气らしいもの”が見つかってしまったら、家庭画報7月号 260-261 世界文化社 2018.7
- ・ 「お医者様のトリセツ（尾藤誠司）」、数値の異常は必ずしも病気ではない、家庭画報6月号 252-253 世界文化社 2018.6
- ・ 「お医者様のトリセツ（尾藤誠司）」、“病名さがしの旅”という名の検査、家庭画報5月号 262-263 世界文化社 2018.5
- ・ 「お医者様のトリセツ（尾藤誠司）」、「風邪ですね」に込められた本音、家庭画報4月号 310-311 世界文化社 2018.4

(2) 受賞 (0 件)

なし

(3) その他 (0 件)

なし

6-6. 知財出願

(1) 国内出願 (0 件)

なし

(2) 海外出願 (0 件)

なし